



本日はよくお参り下さいました

蝉しぐれの降る季節となりました。7月19日に梅雨明けが発表されて以来、連日のように熱い日が続いていますが、体調など崩されたりしていません。さて、今年の8月は、終戦70年の節目を迎えます。現在日本国内には、英霊となった方々の遺骨収集が全く進んでいない場所があります。

小笠原諸島の南端近くに位置する硫黄島です。行政上は東京都に属していますが、許可された人しか入ることが出来ません。本土への空襲を1日でも遅らせるため、命と引き換えに島を守り抜いた二万人以上の方々のうち一万人以上の方のご遺骨が今も地下壕に残されたままです。命がけで日本を守ろうとした方々のご遺志を、私たちは受け継ぐことができていのでしょうか。戦争は恐ろしいものです。しかしそこから目を背けることなく向き合わなければ本当の意味での平和が訪れる日はないでしょう。その第一歩が戦没者の慰霊であると思います。8月15日の終戦記念日に行われる政府主催の全国戦没者追悼式は11:50~12:05までNHKテレビやラジオで中継されます。是非各御家庭で黙祷を捧げて頂ければと思います。今月も皆様のご多幸でありますように。権禰宜道子



8月

1日・15日 つきなみ祭 月に二回の恒例祭祀。

8日 久里浜天神社例大祭一日目

天満宮祭 湯立て神楽齋行

今年も夏祭りの時期がやってきました。天神社の夏祭り是一日目に御神楽が行われます。15:00から、境内にて行います。参列した子どもたちには最後にお楽しみがありますので、皆さまふるってご参加下さい。

9日 久里浜天神社例大祭二日目

八雲祭 神輿渡御(とぎょ)齋行

二日目は、神輿渡御です。午前9時に神輿が神社を出発します。神社周辺の氏子さん宅を周り→10:00頃すずらん通り→10:30頃仲通り商店街→11:50頃明浜アパート→12:50頃内川町内会館。午後は舟倉方面を周り、最終的に神輿が神社に戻るのには21:00頃の予定です。

◆例大祭限定のおふだについて

例大祭では夏場の体力が弱りがちな時期に邪気を払い英気を養い、開運招福を願います。ご利益を頂いたおしるしとして例大祭限定の御神札を頒布します(二枚一組600円)



神社の通称と神さまへ中編

◆「祇園さま・氷川さま・熊野さま」

皆、須佐之男命さまをおまつりするお宮です。須佐之男命さまは、天照大御神の弟神で、やまたのおろち退治のヒーローとして神話に登場します。

【祇園さま】とは八坂神社のこと、京都の八坂神社が有名です。須佐之男命さまは、一名「牛頭(ごず)天王」と称されたため、祇園さまのことを「お天王てんのうさま」とも呼びます。※久里浜天神社の例大祭でも、牛頭天王さまがおまつりされます。

【氷川さま】は埼玉県大宮市の氷川神社が有名です。八坂神社は西日本に多く、氷川神社は関東周辺に多く見られます。

【熊野さま】も全国に多くありますが、これは和歌山にある熊野三社を中心に分かれてきたものです。熊野三社におまつりされている熊野大神とは、この須佐之男命さまのほかに、伊邪那岐、伊邪那美の命さまと、その御子神さまである須佐之男命さまです。かつては「囃の熊野詣」といわれたほど、多くの人々が熊野にお参りました。

◆「香取さま・鹿島さま」

千葉の香取神宮 茨城の鹿島神宮にまつられている神さまです。

香取の神さまは経津主神(ふつぬしのかみ)、鹿島さまは武甕槌神(たけみかづちのかみ)です。神話によると、この二柱(ふたはしら)の神さまは、天孫降臨(てんそんこうりん)に先立つて、天(てん)の神の命令を受けて出

雲の国に下られ、大国主の神さまに国を譲るように説かれた神さまで、いずれも日本の建国に大いなる功労を残された神さまです。「フツ」という言葉は太刀の見事な切断を意味し、また「タケミカヅチ」という名も強い神力を表すように、力の強い神さまで、外に温和な態度、内に鉄の如く不屈の精神を持つ神さまです。古くから武道の神として信仰されるのもこのためです。全国に鹿島さまは九百余社、香取さまは五百余社といわれます。

◆「金毘羅さま(こんぴらさま)」

金毘羅さまの(本社は、香川県琴平町の金刀比羅宮です。祭神は大物主(おおものぬし)の神さまです。もともと金毘羅とは梵語で、古いインドの仏教の守護神をいいます。これが本地垂迹説(ほんちすいじやく)の影響で、金毘羅大権現とも呼ばれました。神話によると、大国主の神さまの国づくりの時、海を照らして来られた神さままで、**大国主の神の和魂**(にぎみたま…魂の優しく平和的な側面)ともいわれています。この神さまは海上交通守護の神さまで、海を照らして人々に明るい光明と幸福を与えられる神さまとして仰がれています。全国に七百社あると言われています。



奥が大物主神

「私を手厚く祀るなら国造りは、無事完成するでしょう」

参考文献

『お宮と私たち』全国神社保育園団体連合会発行